



〈創立記念行事 4/5(土)〉(左、矢部、酒井職員にインタビュー) (右、マーク・ホーマン氏講演)

あゆみの家

No. 105号

第4期障害福祉計画

障害者総合支援法(旧障害者自立支援法)は、第五章で障害福祉計画について規定し、厚生労働大臣によって策定された基本指針に基づいて、市町村や都道府県が障害福祉計画を作成することを定めています。

この障害福祉計画は、法が誕生した二〇〇六(平成一八)年から三年ごとに見直されており、今年は第3期計画期間(平成二四〇二六)の最終年度にあたっています。このため、各市町村・都道府県では第4期障害福祉計画(平成二七〇二九)の作成準備が始められているところです。

第4期計画に向けて厚生労働大臣から示された基本指針では、個別施策分野として次の四つが掲げられています。

- (1)福祉施設から地域生活への移行促進
 - (2)精神科病院から地域生活への移行促進
 - (3)地域生活支援拠点等の整備
 - (4)福祉から一般就労への移行促進
- 背景となる基本指針の理念は、「自立と共生の社会を実現」すること、「障害者が地域で暮らせる社会」にすることです。
- (1)や(2)を実現するためには、地域で暮らす場としてのグループホームが必要となります。一九八九(平成元)年に始まったこのグループホーム制度は既に四半世紀が過ぎたことになり、ますが、建築基準法や消防法上の制約、夜間支援体制の在り方、世話人や生活支援員等の人材確保、地域住民の理解など、まだまだ解決すべき諸課題が山積しています。
- 皆が安心して暮らせる地域づくりに向けて、さらなる理解や協力が求められています。

夢の実現への障壁

理事長 中橋 昇



あゆみの家が創立された一九七一年から法人化になる一九七八年の間に建てられた建物で、現在も使用している建物に望み館、自由館があります。それらは、老朽化が進んでいます。その後、第二あゆみの家、デイセンターあゆみの家、作業棟などを建設して参りました。同時にいくつかの事業も地域福祉の担い手として要望に答えるように整備してきました。その間、私の思いは、あゆみの家を利用する利用者の方々の安全、安心を最優先して整備する事を考え、また実行してきました。

その結果、大垣市内に4つの事業所ができ、大垣市内、垂井町内あわせて十力所のグループホームができました。就業・生活支援センターなどの事業も新たに始まりました。職員もパート職員を合わせると約百五十名までになりました。

その結果、事務所機能の大幅な拡充を求められていますが、今の事務所は、二十九年前の通所施設と入所施設の二つの施設だけがあった時代のままです。おのずから、大変狭く、来客応対や会議の場所、書類の保管場所も不足し大変支障をきたして来ています。そこで、数年前から事務所の移転を検討し、昨年度には建設委員会で事務管理棟の構想を練ってきました。当初建設候補地として、県道側の、現在駐車場として使用している場所か、西側の山の麓を考えてきました。

しかし、県道側は借地に加え、活断層と西濃用水路が有ること、西側には洪水時に谷水がともに流れてくる事が度々あり、どちらも建設に適していないと判断しました。

思い悩んで選択したのが施設南隣地に有る、長年耕作されていない田地です。この候補地は、市街化調整区域であることは承知しており、早速手続きを開始しました。昨年から、町農業委員会への打診、町建設課との摺り合わせをしながら県振興局の建築

事務所と協議してきました。

この候補地が与えられれば、事務管理棟を整備できると共に、今でも不足している駐車場の確保等が出来る最適な場所であり、さらに五年先、一〇年先を見据えた、高齢者や、重度心身障がい者の短期入所などに対応できる施設などの総合施設整備がこの隣地の入手で可能になると考えました。

しかし、そこには市街化調整区域という、大きな壁が有り、前進する事が非常に困難な状況となっています。市街化調整区域とは、この区域では、開発行為は原則行わず、都市施設の整備も原則として行わない。つまり、新たに建設物を建てたり、増築することや極力抑える地域の事。また開発許可は、開発区域の面積が一ヘクタール(一万平方メートル)以上の土地開発事業について適用されるということです。つまり、市街化調整区域には、建物を建ててはいけな場所であるということです。

今後、必要性を訴えて開発審査会の協議のテーブルに載せて頂き、「夢」の実現の道が開かれるように全力を注ぎます。これが叶えられると今以上の安全、安心なサービス提供が出来、また職員の職場環境改善にも繋がる事になります。関係する行政の人たちも色々な知恵を出して下さるので、実現すると確信しているが、時期は残念ながら判らないので示せません。

聖書ルカ一八章一―八節に「裁判官とやもめの譬え話が記されています、このやもめの様に、気を落とさず実現の為に絶えず祈れ!と神は言われています。

「夢」の内容とは異なる別の道を神は用意されるのかも知れません。信仰する全能の神に委ねたいと思います。

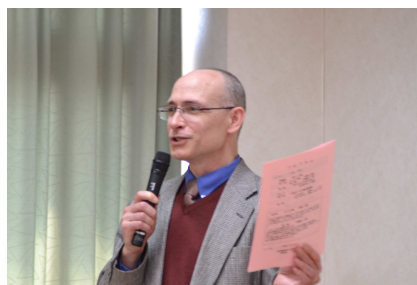
多くの皆様方に、あゆみの家をご支援をして頂いております事を心より感謝しております。どうか、夢実現の為に共に祈りして下さい様、お願い申し上げます。



あゆみの家航空写真

ボーマン先生を語る（創立記念行事）

四月五日の創立記念行事では、創設者のボーマン先生のご子息マーク・ボーマンさんより、講演していただきました。



「講演の内容（抜粋）」

家を建てるとき、私たちはどうしても外観に目がいつてしまうが、土台がなければ家は建たない。家を建てる時に最も大切な土台の話をしたい。

父はいいところもあるが、評価できない面もある人間だと思う。しかし、それがあゆみの家の土台の邪魔になったわけではない。父の土台があゆみの家の土台になった。

父は幼少時代、貧しい家庭に育った。九歳の時に母が家を出、生活が安定せず、学校にもあまり通うことができなかった。働き始めた家の方がキリスト教を信じている人で父も教会に行き始め、聖書も読み始めた。ある日、神さまの愛を知ることができた。そして、父は以前とは違う人間になり、キリスト教という土台が作られた。戦争が終わって二週間後に日本に派遣された。アメリカに戻る前の送別会で、父が教会に集っていた方々に「何かアメリカから持ってきてみましょうか？」と尋ねると、「また、日本にきてイエス様（キリスト教）のことを伝えてください。」と言われ、父は再び日本に行く決心をした。

社会的に考えると何もできない父であつたが、神さまが父の人生を導いてくださつて人間では考えられないことを父の人生に与えてくれた。聖書の中に、「神は知恵ある者を選び、強

創設者との思い出紹介

あゆみの家、創立43周年で集い

垂井町

垂井町東部の障害者就労・生活支援施設「あゆみの会」の創立43周年を記念した催しが同施設であり、職員や関係者が、施設の歩みを振り返った。

同施設は、1971年4月4日、障害者の通園施設として開設したのが始まりで、現在は同施設のほかに、町町や大垣市などに七つの関連施設があり、約170人が利用している。

今年は、創設者のジョン・ボーマンさんが亡くなって10年を迎え、生前のボーマンさんを知る職員も少なくなったが、当時をくづる職員が思い出を語った。

職員の矢部俊哉さんと酒井静男さんは「ボーマンさんは、支援でいただいた物はみんな物も大切に保管し、勝手に捨てるひびくしなかった。支援者の思

たなどと語り、ほかにも開所当時の写真や資料も紹介された。ボーマンさんの長男で札幌市で牧師を務めるマーク・ボーマンさん(62)も参加した。

(佐名勢子)



亡くなったボーマンさんとの思い出を語る施設の
職員＝垂井町栗原、あゆみの家

い者はずかしめるためにこの世の弱い者を選ばれた。」とあるが、神さまの選びは父のことだと思う。また、一匹の迷った羊を必死に探した羊飼いの話が聖書にあるが、羊飼いは神さまで、迷った羊は父で、父が神さまによって見つかった。そして今度は、父が多くの人を神さまに会わせたくて、日本にきた。また、神さまは父に良い行いを備えて下さった。父を変えたのは、父のがんばりではなく、神さまの恵みだった。神さまの愛を伝えるため父は神さまによってかえられ、神さまはあゆみの家の働きも用意して下さった。父は神さまから新しい力、愛をいただき、神さまのためにそれを使いたいと思っていた。

聖書の中に、「神さまを愛すること」と「隣人を愛すること」が最も大切な戒めであるところがある。あゆみの家は英語で言うところの【house of the way】である。【the way】は、イエス様が「わたしが道である。」と言われた道のことである。イエス様を通して、神さまの愛を知ることがあゆみの家の土台である。

皆様の人生、働き、人との関係の土台を考えてみませんか？

2014.4.15 岐阜新聞記事

高齢利用者を支援する

第二あゆみの家

生活支援員

古川

泰宏

昨年度、第二あゆみの家では、大垣女子短期大学の先生をお迎えして「発達障がい研修」を行い、大変良い勉強になったと、職員にも好評でした。そこで、今年度は「高齢者支援研修」を、池田町にある福祉の専門学校の先生を講師として、五回シリーズで行うことになりました。

第一回目は「高齢者の心理を知る」をテーマに行われました。「ロールプレイ」(注)による利用者体験では、利用者役にはこれから何を行うか知らせずに、支援者役が無言で入浴のためいきなり着脱介助をするという設定でした。何も知らない利用者役は必死で抵抗したり、逃げ回ったり、中には何となく茫然と脱がされ続ける職員もいたり・・・これは

実は「耳が遠い高齢者」の体験でした。なるほど！と日々の支援を思い返してよくある場面だなぁ、耳の遠い方だけでなく認知症などで支援者の声かけが理解できない利用者もこんな気持ちなのかなと感想が出ていました。



介護用リフト使用中

また認知症の方の支援に関して、食事の直後に「まだ、ご飯たべてない」と言われたら・・・

① 「さつき食べたでしょ！」

② 「お腹空きましたか？ 食事まで時間があるので、おやつを用意しますね。食べて待っていきましょうか？」

よくあるシチュエーションだと思います。②の返答の方が気持ちよい支援ですよ。ある御家族は、「家庭でいつも言っているのは①、急に優しい言葉はかけられない・・・でも、日頃から優しい言葉をかけるように努力してみます。」と言われたそうです。こんな心温まるエピソードにも高齢者支援のヒントがちりばめられていました。

ある日突然私が認知症になった場合、周りの人は「認知症の人」として接するようになるでしょう。しかし、「わたし」は「わたし」のまま、変わらない心で生きている。丁寧で優しいさにあふれた心地よい声かけは必ず伝わるという先生の言葉が、参加したわたしたちの心に響きました。さて、楽しい雰囲気の中で多くのことを学んだ第一回目の研修でしたが、先生が最後に残した、次回テーマの「排泄」に向けての事前課題に職員は凍りつきました。

「次はおしっこね。みなさん、おむつを履いて中でおしっこしてみてください！」

今号が発行されている頃には、この事前課題は済んでいるはず。第二あゆみの家の職員を見かけたら、是非感想を聞いてみてください！

(注)「ロールプレイ」：役割演技。現実の場面を想定して、複数の人がそれぞれ役を演じ、疑似体験する学習方法。

おおぞら サービス提供責任者 伊藤佐知子

一人の利用者の支援は、複数のヘルパーが担当させてもらうことを基本としています。担当するヘルパーが一人だとそのヘルパーが支援できなくなつたときに、途端にその利用者の生活に影響が出てしまいます。また、複数のヘルパーが係わることで偏つた支援になることを防ぐこともできます。しかし、複数のヘルパーが係わると、統一した支援を行ういにくくなります。そのため、おおぞらではヘルパーが直接利用者に伺うのではなく、まず事業所に出勤してもらい前回の記録を読むところから仕事を始めます。ヘルパー間での情報共有していくことで利用者の変化にも気が付きやすく、より良い支援を提供することができると思います。また、支援後は、事業所に戻って記憶が鮮明な内にその日の記録をしてもらうことも心がけています。

現在、おおぞらには十三名のヘルパーが働いています。月に一回ヘルパーが集まり、会議を行うことで情報共有と意見交換も行っています。男性ヘルパーが少ないため、男性利用者の支援が十分できておらず、また、特定のヘルパーが支援に入っているとところに課題があります。

ヘルパー支援は一人で行うことが多い。仕事であるため、一人で悩むを抱え、てしまいがちです。仲間と互いに情報を共有していき、仲間と一緒にスキルアップしていくことで、ヘルパー自身が楽しく仕事をできる環境になるといい。まず、その中で、それを利用者支援にも必ず活かされていく、という思い、これから



車いす乗車体験

出来事ピックアップ



オリーブ
もくもくファームへ (5/27)



第二あゆみの家、きずな 2006
ソフトボール交流試合 (5/24)



とうだいまえ
リニア・鉄道館へ (6/2)



すまいるらんど
ヤクルト工場、デソパークへ (5/30)



林町デイセンター
親子クッキング会 (6/14)



ぐっどらんど
綾里幼保園との交流 (6/2)

貸借対照表

2014(平成26)年3月31日現在

(単位:千円)

資 算 の 状 況	資 産 の 部		負 債 の 部	
		決 算 額		決 算 額
	流動資産	262,621	流動負債	27,917
	固定資産	1,194,396	固定負債	62,123
	基本財産	466,684		
	他の固定資産	727,712	負債の部合計	90,040
			純 資 産 の 部	
			基本金	247,662
			国庫補助金等 特別積立金	192,970
			その他の積立金	584,677
			次期繰越活動 収支差額	341,668
			純資産の部合計	1,366,977
	資産の部合計	1,457,017	負債及び純資産 の部合計	1,457,017

**社会福祉法人あゆみの家
二〇一三(平成二五)年度
決算報告**

社会福祉法人あゆみの家では、二〇一四年五月十七日、決算理事会が開催され、二〇一三年度事業報告、及び決算が承認されました。その決算内容を報告いたします。

二〇一三年度は、長年お借りしていた「ぐっどらんど」の土地建物を取得することができました。また、グループホーム用の住宅も二軒購入することができました。

一年を通して各施設・事業所の活動が滞りなく実施できましたこと、皆様のお祈りとご支援に感謝申し上げます。

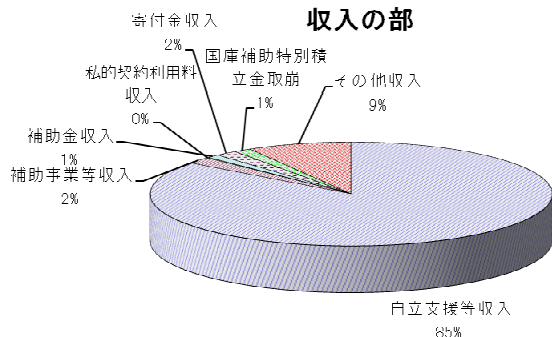
事業活動収支計算書

2013年4月1日～2014年3月31日

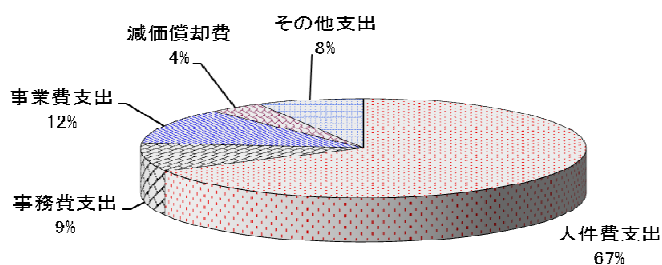
単位 千円

勘定科目		決算額	本部	デイセンター	ぐっどらんど	すまいらんど	第二あゆみ	オリーブ	おおぞら	きずな2006	移動支援	相談支援	林町デイ
収入	自立支援等収入	654,880		103,966	35,017	30,537	265,994	17,331	7,775	129,531		6,794	57,935
	補助事業等収入	15,647		502			6,424			5,395	2,741		585
	私的契約利用料収入	1,285							1,285				
	経常経費補助金収入	7,827					6,641	1,086					100
	施設整備補助金収入	0											
	寄付金収入	9,260	8,968	68	24	20	77	8		69			26
	施設整備等寄付金収入	4,065		1,726	1,743		596						
	退職給与引当金戻入収入	8,714	1,133			53	7,450			78			
	国庫補助特別積立金取崩	10,799		3,502	320		3,704		150				3,123
	その他収入	56,010	2,645	928	28,331	5,143	11,131	568	7,087	80	0	0	97
収入合計		768,487	12,746	110,692	65,435	35,753	302,017	18,993	16,297	135,153	2,741	6,794	61,866
支出	人件費支出	438,546	1,493	60,385	20,650	23,872	180,865	15,273	14,980	84,102			36,926
	事務費支出	59,400	3,854	8,692	2,779	5,884	24,834	1,805	922	6,035			4,595
	事業費支出	76,689		7,956	6,534	5,801	27,341	1,489		24,048			3,520
	減価償却費	25,749		6,244	539	559	10,989	651	575	1,801			4,391
	引当金繰入	5,676		2,066	7		3,451	10	9				133
	その他支出	44,981	8,370	18,240	1,743	0	6,324	31	95	1,337	3,040	5,622	179
	支出合計	651,041	13,717	103,583	32,252	36,116	253,804	19,259	16,581	117,323	3,040	5,622	49,744
	当期活動収支差額	117,445	△ 971	7,110	33,183	△ 363	48,214	△ 267	△ 284	17,829	△ 299	1,172	12,122

収入の部



支出の部



行事予定

- 8/22 (金) 夕食会 (オアシス)
8/24 (日) 第二回交流会 (就労支援センター)

最近のできごと(4/1 ~ 8/9)

- 4/5 (土) 創立記念行事
4/26,27 (土/日) あゆみの家バザー
5/24 (土) ソフトボール交流試合
(第二あゆみの家、きずな 2006)
5/27(火)・6/13(金) 親子外出 (オリーブ)
行き先: もくもくファーム
5/30 (金) 日帰り旅行(すまいるらんど)
行き先: ヲウト工場・デンパーク
6/2 (月) 日帰り旅行 (とうだいまえ)
行き先: リア鉄道館
6/14 (土) 親子クッキング会 (林町デイ)
6/22 (日) 交流会 (就労支援センター)
8/9 (土) 夏祭り
(第二あゆみの家、林町デイ)

あゆみの家バザーの会計報告と御礼

4月26、27日の両日、垂井町文化会館で行われたバザーについて、ご報告をします。

総売上げ額 1,334,592円

皆様方の御働きとご協力に心より御礼申し上げます。これからも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ボランティア(2/1 ~ 5/30)

延べ: 30回 51人
(団体: 30人・個人: 21人)
〈ボランティア団体名、学校名〉 ※順不同
養老町赤十字奉仕団、美容奉仕、理容奉仕、
大垣レーテル教会わいわいクラブ

共同募金 配分事業

今年5月、岐阜県共同募金会より配分を受け、「すまいるらんど」で使用する車両を購入することができました。
多くの方のお気持が1台の車になりました。



とっふまえ に新メニュー登場!

6月24日より新たに【焼きそば定食】がランチメニューに加まりました!是非この機会に「喫茶&リサイクルのお店 とうだいまえ」にお越し下さいませ。夏メニューのかき氷もぜひどうぞ!



とっふまえ

大垣市船町1丁目19
(TEL) 0584-78-5801

編集後記

今年も暑い夏がやってきました。暑い夏はつらいことありますが、楽しいイベントもあります。第二あゆみの家でも夏祭りが開催されました。今年は台風の関係で地域のボランティアさんや地域の子もたちなどは呼ばず、内輪だけの小さな夏祭りとなりましたが、カラオケを歌ったり、美味しいものを食べたり輪投げなどをしたりして楽しく過ごすことができました。

しばらく暑い日が続きますが、皆様もどうぞ楽しい夏を健康に過ごすことができますよう、お祈りいたします。(小林)

編集: 社会福祉法人あゆみの家

〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2

Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <http://www.mirai.ne.jp/~ayumi>

E-mail ay464h@he.mirai.ne.jp

各種地域ホームのご案内

●グループホーム

●あゆみホーム

Tel 0584-82-3056

●めぐみホーム

Tel 0584-22-4345

●東神田ホーム

Tel 0584-22-2264

●岩手ホーム

Tel 0584-22-3032

●いなばホーム

Tel 0584-92-0792

●青柳ホーム

Tel 0584-89-6231

●静里ホーム

Tel 0584-92-2405

●表佐ホーム

Tel 0584-23-3305

●大門ホーム

Tel 0584-22-5079

●あいかわホーム

Tel 0584-23-0822

林町デイセンター 〒503-0015 岐阜県大垣市林町7丁目142-1 / TEL 0584-47-9920